

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース/
小西 正雄

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容について

拙著『君は自分と通話できるケータイを持っているか』をテキストに、担当授業「現代の諸課題と学校教育」において、学校現場の授業づくりの構造そのものを問い直す多くの問題提起を行い、教育ジャーナリズムなどから発せられる教育言説に惑わされることなく、広い視野と学問的探究心、人間教師としての良心にしたがって、主体的に教材選択、授業創造できるような力を身につけさせることをめざす。

②授業方法について

拙著の内容解説、内容理解は受講学生の予習に任せ、講義では、その発展応用、具体的には参考文献の紹介や討議およびそのとりまとめなど受講学生の参加を主とする授業展開をめざす。

③成績評価について

上記とも連動するが、講義中の受講学生による文献紹介やさまざまな報告活動など、学生の関心や意欲ならびに進路・適性に応じて選択できる多種類の評価オプションを用意し、そのポイントを、ベースとなる筆記試験ポイントに加えるかたちで最終評定を行う。

2. 点検・評価

①②前期ではテキストの読みを中心に授業展開したが、単なる文章解説的な授業に陥るきらいがあったので、後期は、テキストと重複することも想定した上で、比較的自由な内容展開を試みた。その結果、流れがよくなったと実感できたので、この方式は来年度に引き継ぐ。

③後期の授業（現代の諸課題と学校教育Ⅱ）では120人を超える多様な受講生を抱えるという異常な事態のなかで、成績評価には苦勞した。昨年度の反省を踏まえてあらかじめ評価オプションを用意し、受講生のレディネスの違いに可能なかぎり対応するように努めた。ただ評価問題の内容や形式については受講生の側からすれば必ずしも満足のいくものではなかったという懸念も残ってはいる。ただし来年度からはこのように大人数の受講とはならないので、この懸念は払しょくできると考える。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

25年度はコース長を拝命するので、学生の奨学金申請、ゼミ選択、学生主催行事などの機会をとらえて個人面談を可能な限り頻繁に実施し、L1、M1生の現況把握に努める。

2. 点検・評価

上記中間報告にあるように、前期の主要行事にかかわる学生支援はとどこおりなく遂行することができた。後期はゼミの修了予定年次在學生(M2、L3)については修士論文指導を中心に、M1、L2については論文構想作業の支援を中心に、教育指導と就職支援、生活相談を適宜行った。また2名のL2の教育実習に際しては研究授業に立ち会った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨秋に日本教育大学協会研究集会で発表した内容を、同協会編集の『研究年俵』に投稿する。また、24年度後期・25年度前期の授業実践を中心に、10月5日に札幌全日空ホテルで開催される研究集会において実践報告を行う。

2. 点検・評価

上記投稿原稿が掲載された『研究年報32号』は3月に刊行された。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

現代教育課題総合コース長として、コース運営に万全を期す。とくに26年度からスタートする遠隔教育プログラムと既存の通学制とのあいだの円滑な連携のために、カリキュラム、学生支援体制などのあり方について関係機関との協議を重ねる。
大学院定員確保のための広報活動について、例年以上に積極的に私学訪問を行う(ただし予算等の許す範囲内で)。

2. 点検・評価

上記のほか後期には関東学院大学にて、教職課程の授業を1コマまるごと拝借して入試広報活動を行った。遠隔教育プログラムについては、開設への最終段階における規定の整備等事務的な作業を、担当の藤村准教授と共同して行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

引き続き在ホノルル日本人授業補習校の授業支援にあたる予定である。ただし25年度は現地訪問(師範授業の実施、授業検討会の開催)は予算の問題もあり実行できるかどうか現時点では判然とはしない。
教育支援講師・アドバイザーの要請があった場合には、本務に支障のない限り協力する。

2. 点検・評価

1月にホノルル日本人授業補習校を訪問し、5コマの授業を見学(一部参加)するとともに、デジタル教科書の今後の活用について校長、副校長先生と協議した。また11月の授業研究会への支援についてもその可能性を話し合った。2月にはお茶ノ水女子大学附属小学校、大田区立羽田小学校の研究授業大会に参加し、授業につき必要なアドバイスをし、担当者ならびに校長から感謝の言葉をいただいている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

入試広報、国際貢献、授業研究指導を中心に、持ち味をいかした貢献ができた。